

百五十年の刻を

超え、 邂逅

宮越家離れ・庭園の春の一般公開が今年も5月23日から始まっている。今年度の目玉となる企画はなんと言っても宮越家が所蔵する「春景花鳥図」と一連の作品であるイギリス大英博物館が所蔵する「秋冬花鳥図」の高精細複製品を同時に見ることが出来る襖絵の特別展示である。

現在「秋冬花鳥図」の高精細複製品は、元々二つの作品を所蔵していた奈良県の談山神社に収められているが、宮越家の一般公開に合わせて中泊町に運び込まれた。複製品とはいえ、両襖絵が会するのは百五十年ぶりとなる。

特別展示を監修した狩野派研究の専門家で元京都国立博物館主任研究員の山下善也さんが、二つの作品について語った。

(山下)

当初は江戸時代初期と発表しましたが、その後の調査で桃山時代末期〜江戸時代初期の1600年〜1624年に狩野派の絵師によって制作されたものと思われます。作者名については今年度かけて裏取りを行い、説得力のある答えをお示しします。



宮越家離れ「詩夢庵」奥の間にて襖絵を前に解説する山下善也さん

今回忘れてはならないのが「綴プロジェクト」の存在である。綴プロジェクトは、キヤノン株式会社と特定非営利活動法人京都文化協会の社会貢献活動として、日本が誇る文化財を後世に伝えようとキヤノンのデジタルイメージング技術と、京都伝統工芸の技術を結集して高精細な複製品を制作している。

展示される「秋冬花鳥図」の複製品も同プロジェクトにより、2018年に談山神社に奉納されており、宮越家が所蔵する「春景花鳥図」の存在を知った同プロジェクト

左の写真が「春景花鳥図」と「秋冬花鳥図」を直角に並べたもの。直角に並べた角の二面(本誌表紙を参照)に着目してもらうと、白梅や椿と思われる花が咲いた土の部分や流れる川などが別の作品にもかかわらず連続しており、二つの襖絵が一連の作品であることがわかる。

また、日本家屋は四方の長さが違うことから、東側に面していたとされる「春景花鳥図」より北側に面する「秋冬花鳥図」のほうが横幅が長くなっている。

春の公開では来場者の通路を確保するため、写真の左側三枚は別の場所に展示される。作品八枚が並んでいる光景は本誌を含め少数の報道メディアでしか見ることはできない。

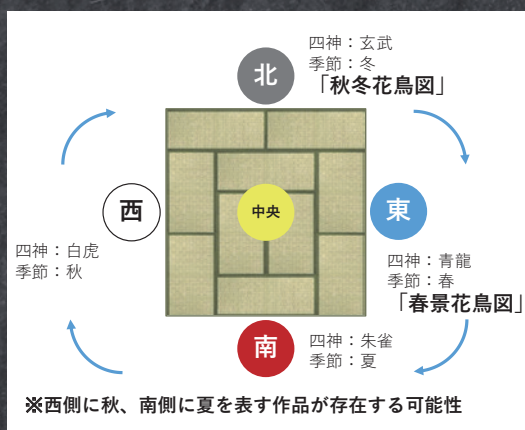


左「秋冬花鳥図」高精細複製品、右「春景花鳥図」画像提供：キヤノン



「秋冬花鳥図」高精細複製品 制作：綴プロジェクト(キャノン、京都文化協会)
 原本：大英博物館蔵 ©The Trustees of the British Museum(2017)

※図1：四方四季の法則



また「秋冬花鳥図」の対となるよう宮越家の襖絵の名称を「春夏花鳥図」と発表していました。今回「春夏花鳥図」に改めました。これは、夏の景色と考えていた川部分の急流の描写にずっと違和感があり、咲いている白梅や椿などから夏ではなく、早春の雪解け水による急流であると判断したためです。

陰陽五行に由来する四方四季の法則(※図1)に照らし合わせると、「春夏花鳥図」は春を表す東側に位置し、「秋冬花鳥図」は冬を表す北側に位置します。可能性の話ですが、西側と南側にも対応する作品が存在していたかもしれません。

来場された方には、400年も前の作品がこんなにも綺麗な状態で残っているという事実を体感してもらいたいです。



キャノンサステナビリティ 推進部 部長の平澤利和さん

エクトの関係者から打診を受けたことで、今回晴れて一連の作品を展示する特別展示を開催することができた。

綴プロジェクトを共同で推進する、キャノンサステナビリティ推進部長の平澤利和さんと京都文化協会代表理事の田辺幸次さんは、無事両襖絵が再会したことに胸を撫で下ろした。

(平澤)

日本の文化財を次世代に残していくのが、プロジェクトの意義。特に若い人たちにってもらい、誇りを持って、また次の世代につないでほしいと思います。

(田辺)

大英博物館に所蔵されていた日本作品の展示スペースは少なく、せっかく見に行っても展示されていないことが多いです。そんな作品の複製品を一連の作品と一緒に、しかも間近で見れるというのはとても意義のあること。ぜひ多くの方にご覧になっていただきたいです。



京都文化協会 代表理事の田辺幸次さん

宮越家離れ・庭園公開日

「春」令和7年5月23日(金)～6月29日(日)

販売：完売いたしました。

「秋」令和7年9月26日(金)～11月3日(日)

販売：令和7年9月9日(火)～

※「秋冬花鳥図」の高精細複製品は秋の公開でも展示されます。

宮越家離れ・庭園公開日

(一社)中泊町文化観光交流協会 ☎0173-57-9030

<https://nakadomari-ctea.jp/archives/1501>

チケット料金

お一人様2,500円